

2013年(平成25年)2月24日(日曜日)

# 児童虐待の防止へ 理解深めよう

## 市議有志が市民フォーラム開く



市民フォーラムでは水谷氏(壇上左から3人目)らによるパネルディスカッションが行われた

### 名古屋市

児童虐待をなくすにはどうすればいいか。公明党など3会派の名古屋市議会の議員でつくる「児童虐待防止条例を考える議員有志の会」は10日、児童虐待をテーマに市民フォーラムを同市内で開催した。同会は、フォーラムで寄せられた意見・要望を踏まえ、今後、開会中の市議会定例会に「児童を虐待から守る条例」案を提出し、条例制定をめざすことにしている。この日のフォーラムでは、「夜回り先生」で知られる水谷修氏が講演するとともに、パネルディスカッションで、児童虐待防止への取り組みについて活発に意見が交わされた。

フォーラムでは、初めに水谷氏が講演。同氏は

高校教員の時代、生徒の更生、薬物汚染の拡大予防の活動に従事。また「夜回り」と呼ばれる深夜の繁華街でのパトロールを通じ、多くの若者と触れ合い、非行防止などに取り組み一方、全国の子どもたちからの相談にも応えている。こうした現場での経験を基に執筆やテレビ出演、講演などで活躍している。現在、花園大学および関西大学客員教授。

講演で同氏は、大人がイライラし攻撃的になっている現代のストレス社会では、家庭と学校が子どもの唯一の居場所であるにもかかわらず、子どもの人権が守られていない現状を指摘。その上で、「大人は子どもを笑顔にし、幸せにする義務がある。一人の子が涙することは大人の恥。一人の子が命を失うことは大人の罪。大人がその発想を持たない限り、虐待はなくなる



水谷氏(手前左から2人目)と懇談する党名古屋市議団ら

ない」と訴えた。

この後、水谷氏や弁護士、里親会役員、市小中学校PTA協議会会長、市職員らによるパネルディスカッションが行われ、「児童虐待防止条例を考

も虐待が地域の深刻な問題だという意識を市民に啓発してほしい」と話していた。

全国の児童相談所に寄せられた児童虐待相談対応件数は2011年度は

## 公明が リード 児童守る条例提案 情報共有、支援拠点など明記

「児童虐待防止条例を考える議員有志の会」の一員である公明党の田辺雄一市議が進行役を務めた。

各パネリストからは、虐待の防止や早期発見には、地域が児童相談所や警察などと連携を強めることや、ワンストップの相談施設が必要との意見が出された。また、「虐待を受ける親は子どもを育てる方、ほめ方が分らない」として「親を教育するプログラムを導入すべきだ」との提言も。参加者は「児童虐待について理解を深めることができた。今後も虐待が地域の深刻な問題だという意識を市民に啓発してほしい」と話していた。

待する親は子どもを育てる方、ほめ方が分らない」として「親を教育するプログラムを導入すべきだ」との提言も。参加者は「児童虐待について理解を深めることができた。今後も虐待が地域の深刻な問題だという意識を市民に啓発してほしい」と話していた。

これには公明党市議も積極的に参加し、条例案の立案をリードすることにも、市民の声を聞き、条例について共に考えるフォーラムの開催にも尽力。今回、提出予定の条例案は、米國・ロサンゼルス市の先進事例などを参考に作成。特に①市の児童相談所と区役所の福祉担当部署が児童虐待に関する情報を共有する仕組みづくり②地域での相談支援拠点の指定③虐待を受けた児童と保護者の再統合に向けた指導および支援——などを明文化し、その実施を定めている。

フォーラム終了後、公明党市議団の三輪芳裕団長らは水谷氏と懇談し、「児童虐待撲滅に向けた条例の制定をめざす」と語った。